

「新しい東北」みやぎ復興ソーリズムフォーラム ～未来につなぐ 東北のものがたり～

2023年12月26日(火) 13:30~16:00

開会のあいさつ

復興庁 復興知見班 参事官

後藤 隆昭

開催趣旨說明

基調講演

宮城県における観光・震災復興の現状

宮城県
復興・危機管理部 復興支援・伝承課 課長

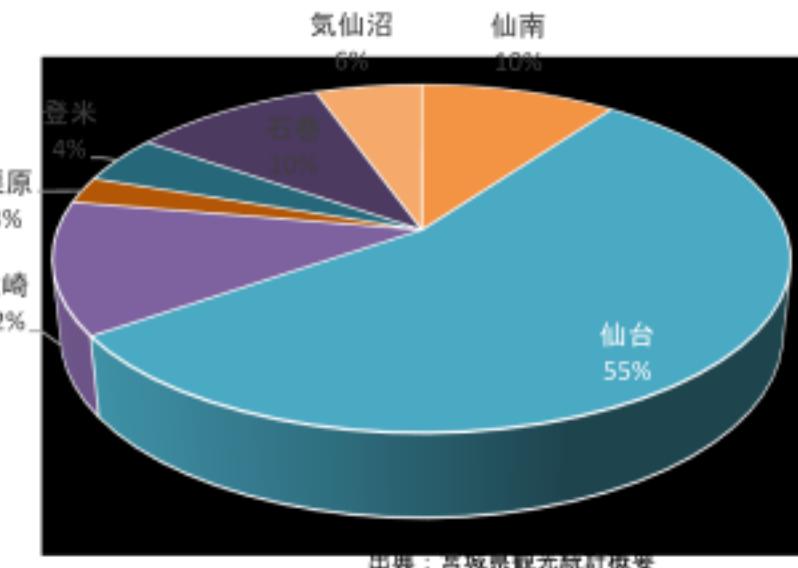
樋口 保氏

本県の観光の現状と沿岸部の状況 ~宮城県の観光客入込数~

令和4年（速報値）は、5,724万人と前年比+27.2%の増加、コロナ禍前の令和元年の70.4%まで回復



令和4年 圏域別観光客入込数内訳（速報値）

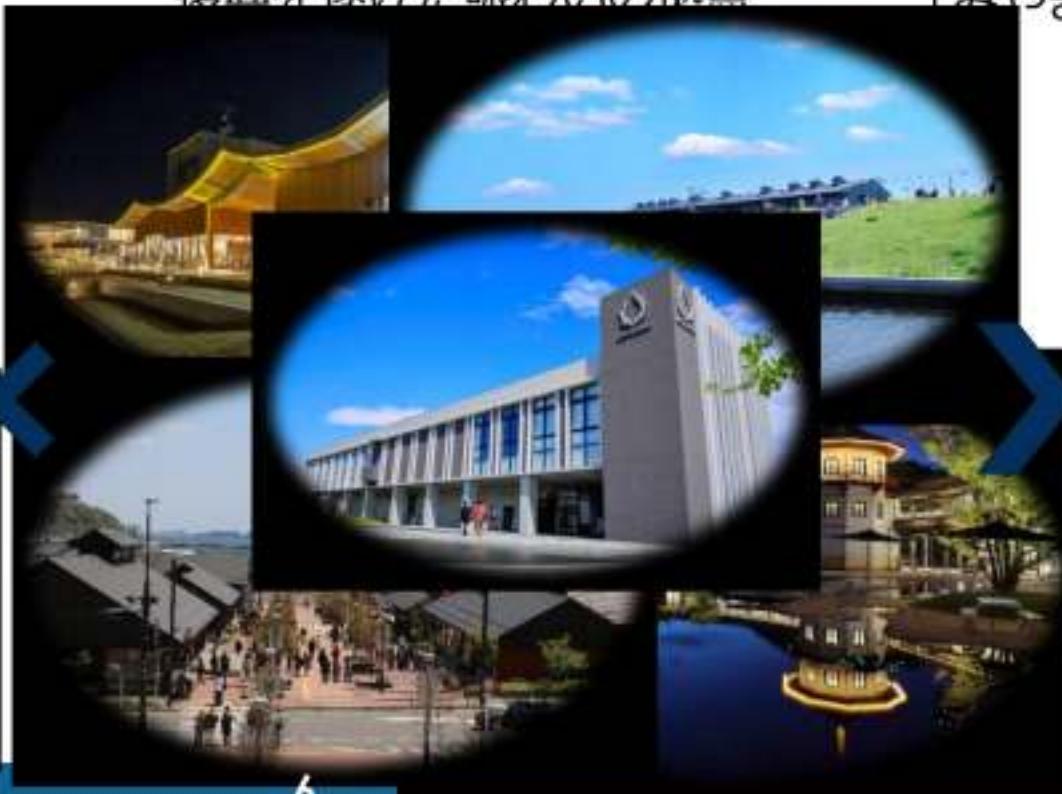


沿岸部における地域資源

震災遺構等の伝承施設や伝承プログラム



復興を遂げた眠わいの拠点



「みやぎ復興のたび」で紹介



県内に在る主な震災遺構等



教育旅行の誘致、企業向け研修の構築に向けた取組

教育旅行の誘致に向けた取組

関西方面の学校への個別訪問 東北教育旅行セミナーへの参加



企業研修向けプログラム構築の取組

現在、知見を有する企業に聞き取り調査中→

5. BCPに基づいた復旧状況

BCPに基づいた復旧状況	
3月 11日 (金)	BCPに基づいた復旧状況 BCP実施会議 BCP実施会議セミナー ・東西幹線と東北幹線のBCP実施会議 ・自衛隊機動連携会議 (BCP実施会議) ・BCP・フォーラム・震災 対応会議 ・震災 対応会議実施会議 (BCP実施会議) ・大曲温泉を除し復旧完了 22:00 震災対応会議実施会議完了
3月 12日 (土)	・本社・西生田の被災状況把握 ・対外機に200台、震災対応の実施調査 ・震災マスター→震災対応会議 ・震災 対応会議
3月 13日 (日)	・震災 対応会議実施会議を済む (震災 対応会議)



BCPIはマニュアルですぐ実行



出典：BCAO News (特定非営利活動法人 事業継続推進機構)

様々なターゲットに向けた沿岸部訪問の促進

個人旅行向けの誘客の取組



DX

TOHOKU JAPAN TOHOKU Tour Club

ルート検索システム

観光施設A

観光施設B

観光施設C

Q 東北のモデルコースを探す

コースを作成

認知度

訪問数

DX

各種情報発信の取組

広報紙「Baton」



関連映像やバック
ナンバーはコチラ→

各種SNS

フル型



プッシュ型 お友だち登録 キャンペーン中！



事業紹介

宮城県内エクスカーションプログラムについて

JTB総合研究所 客員研究員

後藤 直哉

株式会社たびむすび

稻葉 雅子氏

○宮城県沿岸部におけるエクスカーションプログラム造成の取組について

- ・2025年の大阪・関西万博、各種MICE等により国内外から東北に訪れる方が生じる機会をとらえ、宮城県沿岸部のエクスカーションプログラムを検討。
- ・2022年度は行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定し、宮城県の被災・復興の状況の理解を深め、防災に関する意識を高めるためのモニタリングツアーを実施。
- ・2023年度は**実現と自走化を目指して継続的にエクスカーションプログラムのブラッシュアップ**に取り組み、**2本のプログラム、訪日外国人向けモニタリングツアー1本**を試行。

メインターゲット層は幅広く旅行者層

メインターゲット層は行政・教育関係や企業管理職等

プログラムA

門脇小学校で防災の大切さを学び、
被災から復活を遂げた牡蠣養殖の物語を知る

震災の基本的な情報を知る

石巻市震災遺構 門脇小学校

牡蠣をテーマに、産業復興の姿を知る

昼食：牡蠣メニュー
+地元産白ワインのペアリング

地元漁師と行く牡蠣棚

水族館が果たす持続可能な水産資源への取組を知る

うみの杜水族館

被災を乗り越えて復活を遂げた
牡蠣養殖の復活のストーリーを知る

プログラムB

宮城県沿岸地域の被災地域における
賑わい創出への取り組み

震災の基本的な情報や防災・減災の知識を得る

震災遺構仙台市立荒浜小学校

「教育と防災」の視点から、未来に向けた取組を学ぶ

仙台市立高砂中学校

企業BCPと産業復興の取組を知る

キリンビール仙台工場

「防災」にスポットをあて、
教育と防災・減災／企業BCPの取組から学びを得る

メインターゲット層は幅広く旅行者層

プログラムA

門脇小学校で防災の大切さを学び、
被災から復活を遂げた牡蠣養殖の物語を知る

震災の基本的な情報を知る

石巻市震災遺構門脇小学校

牡蠣をテーマに、産業復興の姿を知る

昼食：牡蠣メニュー
+地元産白ワインのペアリング

地元漁師と行く牡蠣棚

水族館が果たす持続可能な水産資源への取組を知る

うみの杜水族館

被災を乗り越えて復活を遂げた
牡蠣養殖の復活のストーリーを知る

行程

仙台駅より三陸自動車道を経由して石巻市へ

石巻市震災遺構門脇小学校を訪問

※唯一、津波火災の脅威を伝える震災遺構であり、避難行動や平時からの訓練の重要性等を伝える

奥松島イートプラザにて昼食

※宮城県産牡蠣を堪能
※ワインの海中熟成で知られる「三陸ワイナリー」のワインを用意

地元漁師と行く牡蠣だな見学

※漁船にて船長とガイドと一緒に牡蠣棚見学

うみの杜水族館見学

※津波被害にあった松島マリンピア水族館を引き継ぐ形で開業したうみの杜水族館。開業までのストーリーや宮城県の水産業の復興に向けた取り組みを学ぶ。

仙台駅に向けて出発

仙台駅到着後に解散

訪日外国人向けモニタリングツアー

○ 12/19 (火) 9:00~17:30 訪日外国人向けの検証として通訳ガイド3名にて実施



海外の方をご案内した際に使用した地図 (A3版)









企業研修型

○ 12/1 (金) 8:30～15:15 7名にて実施 対象：仙台港賑わい創出コンソーシアム様 費用：15,800円/1人





アフターコンベンション型

○ 12/8 (金) 12:30~17:00 25名にて実施 対象：東北大大学様 費用：8,000円/1人

東北大大学 青葉山キャンパス	バス 約30分	キリンビアポート仙台にて ご昼食	①キリンビール工場見学 ※8名	②キリンビール工場見学 ※18名
-------------------	------------	---------------------	--------------------	---------------------

12:30



13:00

13:45

13:30

14:50

14:00

15:15

組み込んだ意図
キリンビール工場での日々の防災に向けた取組や地域と協力した復興の取組を知る

キリンビール工場	バス 約10分	震災遺構荒浜小学校	バス 約45分	仙台駅にて解散
----------	------------	-----------	------------	---------

15:15

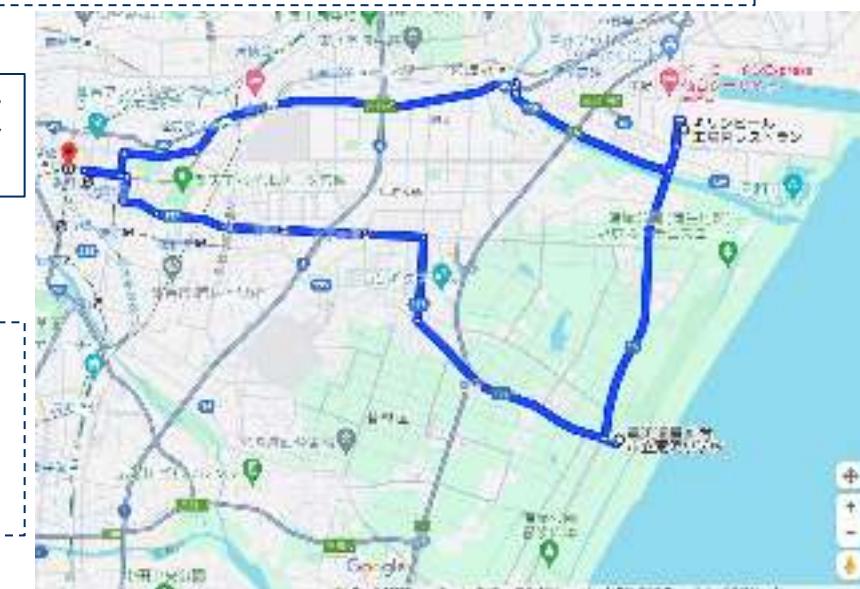
15:30

16:15

17:00



○仙台市立荒浜小学校
2011年3月11日に発生した東日本大震災において、校舎2階まで津波が押し寄せ、大きな被害を受けた仙台市立荒浜小学校。
震災当日、児童や教職員、住民ら320人が避難したその校舎を見学し、東日本大震災の教訓から地域防災の大切さを学ぶ





(参加者の声 ※一部抜粋)

- スルーガイドが添乗することにより各視察先における産業復興というテーマ、ストーリーを感じることができた。
- 移動中も資料の配布や、貴重なお話をしていただいたため、より震災に対する知見が深まりました。
- 現地を訪れる事で、津波の危険性や復興への取り組みをより感じることができました。大変勉強になりました。
- 地勢や震災後の街づくりなども知ることができた。今後、他の震災遺構や資料館なども見てみたい。
- 東北太平洋沖地震の被害や復興について深く知ることができ、とても満足です。

ツアープランナー：企画する方が最初のものがたりびと

- 震災復興に関する『「点」を知る』ことの重要性
- 『「点」を知る』ことでどのようなストーリーが生まれるのかを企画段階で考えることができる

かかわる全員：ものがたりを伝えるひと

- お客様からのご指定で訪問地が決まる場合にも、お客様には何らかの目的があり、その訪問地を選んでいる
- 理由を共有してより一層学びにつながるご案内することが大切

パネルディスカッション

『みやぎから届け!

未来のツーリズムを支えるものがたりの作りかた』

質疑について

質問については、

受付で配布したチラシ内にある二次元コードより
パネルディスカッション終了まで受け付けております。



<https://questant.jp/q/ZMENKDYQ>

パネリスト

JTB総合研究所
主席研究員 兼
(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会理事

山下真輝氏

宮城県観光連盟事務局次長
みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター センター長

三浦 均氏

株式会社みらい旅くらぶ
代表取締役

高谷直嗣氏

株式会社たびむすび
代表取締役

稻葉 雅子氏

宮城県
復興・危機管理部 復興支援・伝承課 課長

樋口 保氏

JTB総合研究所 客員研究員

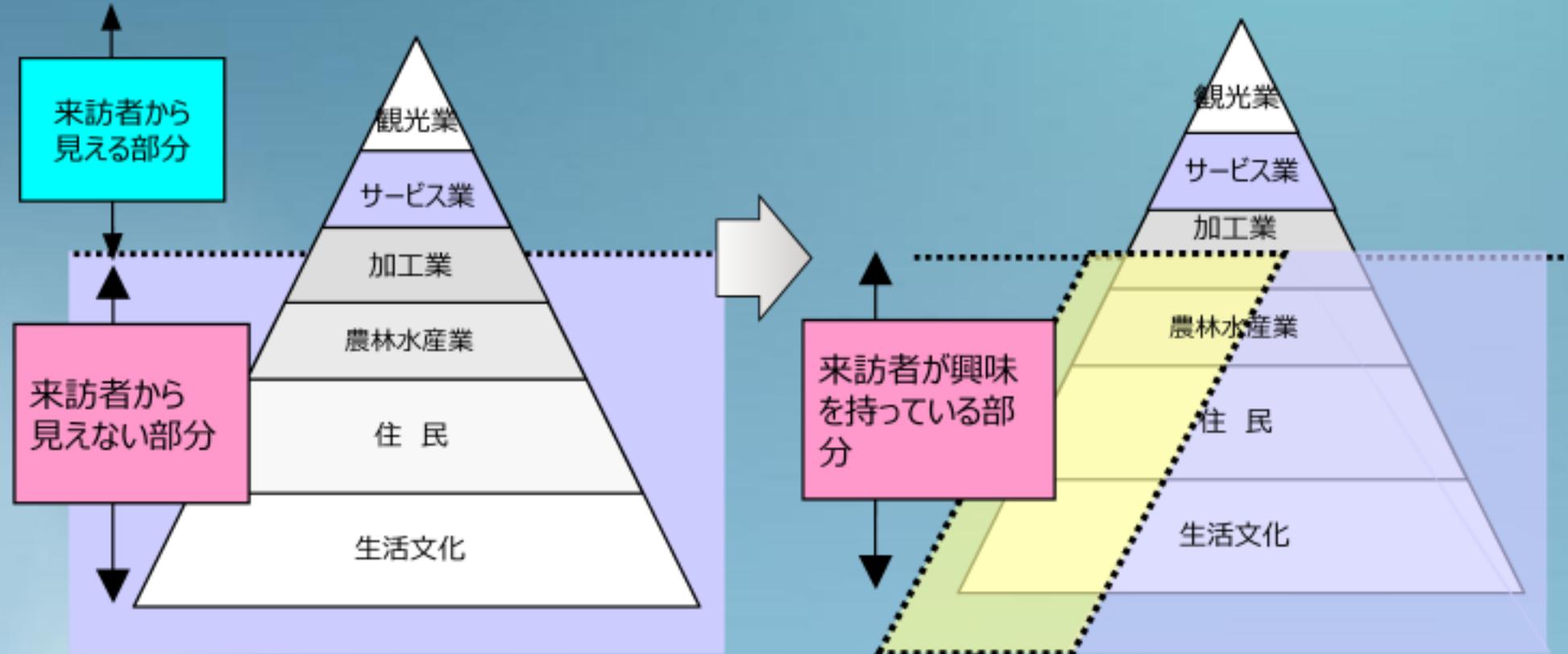
ファシリテーター 後藤 直哉



みやぎ復興ツーリズムフォーラム ものがたりをつなぐストーリーテリング ～スルーガイドの必要性～

株式会社JTB総合研究所
主席研究員
山下 真輝

何が観光資源なのか？



来訪者が興味を持っているのは、
目に見える観光資源だけではなく、
地域住民の**ライフスタイル**である。

来訪者が見えない
ところを**物語**としてどう
伝えるか？



アドベンチャートラベルの3要素の関係性と目的

アドベンチャートラベルとは、ATTaの定義では、「自然とのふれあい」「文化交流」「身体的活動」の3要素のうち、2つ以上が主目的である旅行とされる。

自然は見る
だけではなく
体験する

自然とのふれあい

Interaction with Nature



アクティビティ
はその土地
の「物語」を
伝える手段

身体的活動

Physical Activities



文化交流

Cultural Exchange



その土地
の「文化」
との関わり

その土地
の「人」と
の関わり

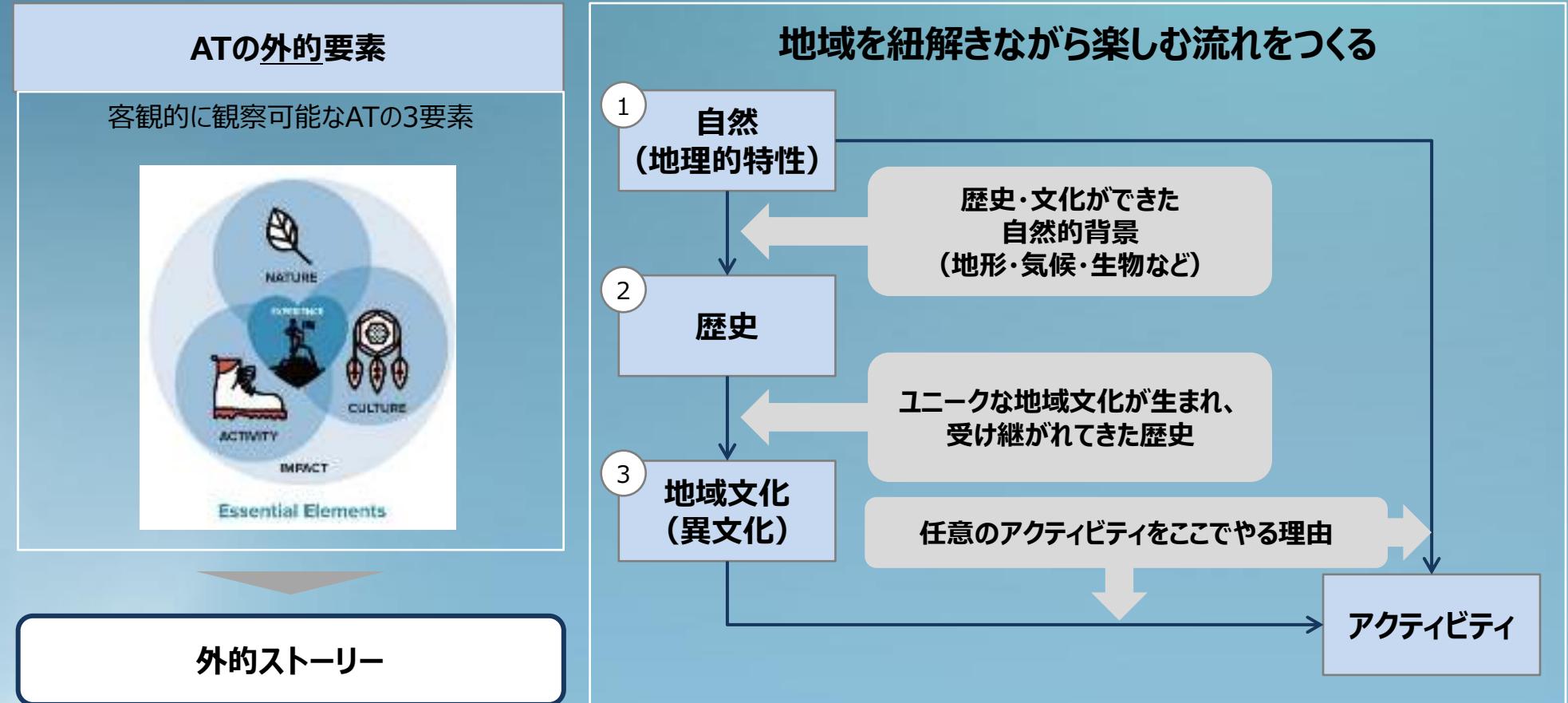
アクティビティは手段である

(実施を通じて地域をより深く、楽しみながら地域の人々と双方向で自然と文化を知る)



従来の旅行産業の概念にとどまらない地域の中小事業者と地域住民に、経済・社会的な観点でのサステナブルな効果を残せること、同時にこの効果が地域の自然や文化を保護・活性化することに貢献していることが重要な要素である。

物語の伝え方：ストーリーテリング



ツアーデザイナーが直接設計できるストーリー

高付加価値な旅行商品は、地域のストーリーを伝えること
“ストーリーテリング”が重要

十勝岳ジオパーク「丘と火山がおりなす彩り」



Value

このツアーに込められた思い

噴火がもたらした地形である

サイクリングのゴールを火碎流台地に設定

ハイキングのゴールを目視で確認できる

地元食材である火山との関係を伝える

十勝岳温泉の生い立ちをインプット

メイン
先人の苦労の歴史を縁ある人が話す

ゴールでの特別な演出

十勝岳への畏怖と美術館



行程の全体像を伝える



終盤のチャレンジ要素



安全に関する説明



波状丘陵を体感



永久凍土など特色を伝える



火山と住民の物語



噴気孔を使った料理



アートで旅の振り返り

感情曲線



Activity

サイクリング

ランチ

ハイキング

美術館

Contents

波状丘陵

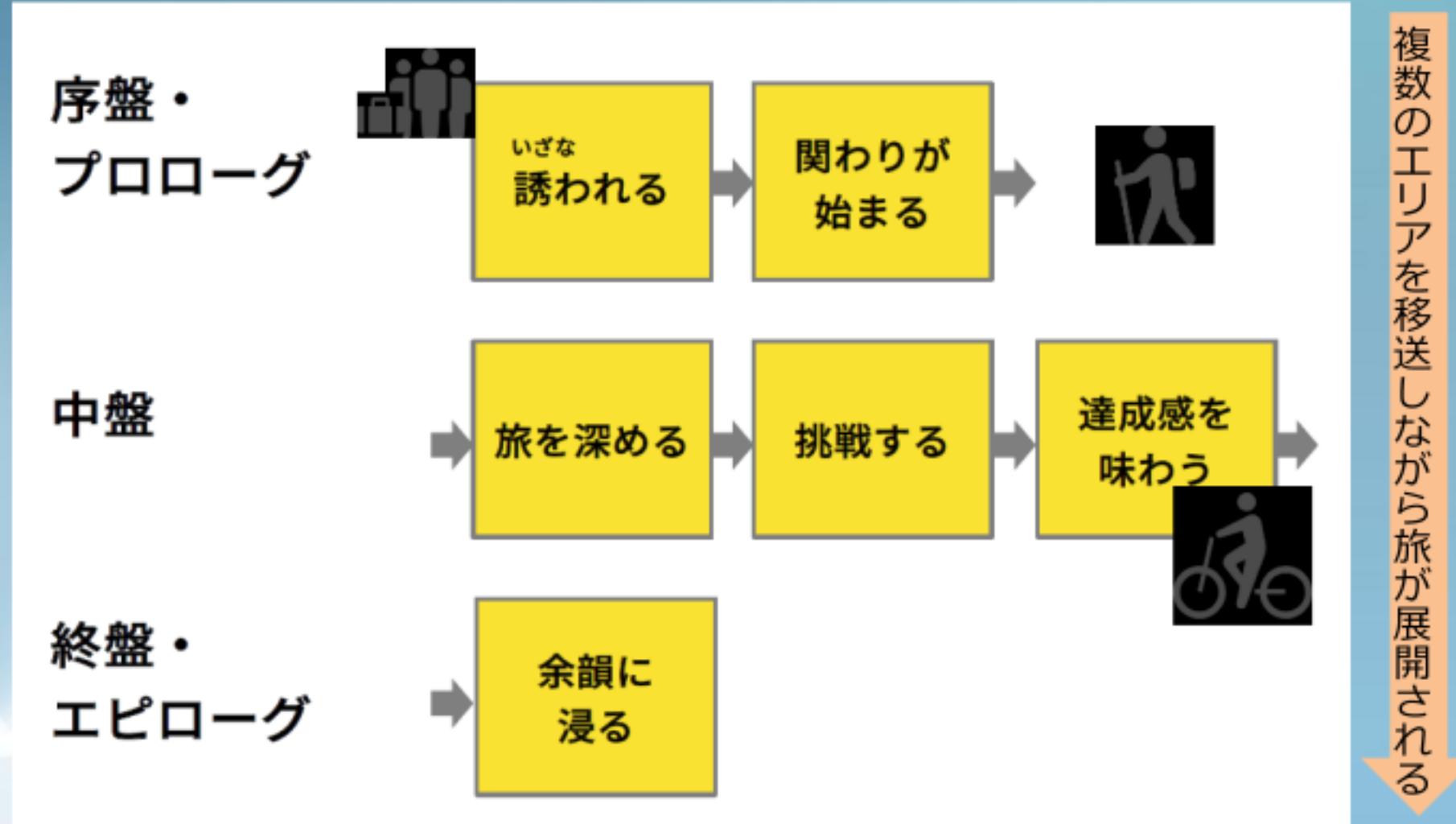
地元食材

十勝岳

Story

十勝岳噴火と人々の暮らしの結びつき

旅の物語の展開イメージ



生きる 海と

先人たちはこれまで何度も津波に襲われても、海の可能性を信じて再起を果たしてきた。人智の及ばぬ壮大な力としながらも、海を敵視せず、積極的に関わり合って暮らしてきた。

それは、単に「海で」生活していたのではなく、人間は自然の一部であることを経験的に体得し、対等の関係を築いて「海と」生活していたとも言える。その態度が自然観や運命観、ひいては死生観となつた。

気仙沼の観念は海にある。

いまを生きる世代が再び海の可能性を信じ、復興を成し遂げることが犠牲者への供養となり、次世代への希望となろう。

理念を超えた観念をメッセージ化したものが「海と生きる」である。



議論テーマ

- ①スルーガイドの必要性
- ②来訪者と地域が、及び事業者どうしが繋がるための方策
- ③宮城県松島高等学校観光科との連携による取組の紹介

議論テーマ

①スルーガイドの必要性

②来訪者と地域が、及び事業者どうしが繋がるための方策

③宮城県松島高等学校観光科との連携による取組の紹介

議論テーマ

- ①スルーガイドの必要性
- ②来訪者と地域が、及び事業者どうしが繋がるための方策
- ③宮城県松島高等学校観光科との連携による取組の紹介

②来訪者と地域が、及び事業者どうしが繋がるための方策

<ポイント>

地域に点在する観光地点を、テーマ性のある「ものがたり」として伝える

仙台市を拠点とする「みらい旅くらぶ」「たびむすび」が
観光客に「ものがたり」を伝えるために意識していること

議論テーマ

- ①スルーガイドの必要性
- ②来訪者と地域が、及び事業者どうしが繋がるための方策
- ③宮城県松島高等学校観光科との連携による取組の紹介

議論テーマ

- ①スルーガイドの必要性
- ②来訪者と地域が、及び事業者どうしが繋がるための方策
- ③宮城県松島高等学校観光科との連携による取組の紹介

③宮城県松島高等学校観光課との連携による取組の紹介

宮城県松島高等学校観光課との連携による取組の紹介

～東北地方からの招待状 TOHOKU WALTZ & INVITATION～

復興庁 復興知見班 参事官補佐 大島 史也

宮城県立松島高等学校観光科



2014年 県内唯一の観光科を新設しました。

令和2年1月12日(土)13日(日)に本校観光科1年による新規立ちなしクリーン活動を実施しました。観光ガイドは皆さん、道場用主催者6人添有り、巡回体験などアゲハチティ型のイベント、生徒が考案したこのあたりにゴミ一箇所のランチ保育などを行いました。

当日は天候にも恵まれ、23名のお客様にご参加いただきました。お寿司からは「七味漬しづー」をありがとうございます! いい感じですか? 「地図の観察技術をめぐり、お隣の方のゴミ袋がかなりよく似しかった! お隸に説明して貰った! お隸も説明して貰った」と感想をいただきました。

また、生徒から牛丼販売することを手伝い販売。地図の魅力を伝えることが可能、お寿司にも満足していただけた。最後の感想は「立地がいい立地で良かった」と話していました。



- 2014年に県内唯一の観光科を新設。
- 観光科では、共通教科の他、観光に関する専門的な学習として、例えば「地元学」「観光基礎」「観光実践」といった独自の学校設定科目を数多く設定。
- 校外での販売実習や観光ボランティア活動など、多数の活動を実施。

画像の引用元：宮城県松島高等学校 <https://matsushima-h.myswan.ed.jp/>

テーマ

東北地方に人を呼び込む、コンテンツの情報発信

コロナ明け、 観光需要の回復

国内旅行者数（2024年見通し）※1

対2019年93.6%

2億7,300万人

訪日外国人数 (2024年見通し)※2

過去最高

3,310万人

万博きっかけの インバウンド観光客

※3

350万人



- ① 東北地方に訪れるきっかけをつくる、興味をひきつける
- ② 一度訪れた後に、周辺回遊を生み出す仕掛けをつくる

※1、2 2024年（1月～12月）の旅行動向見通し（株式会社JTB,2023.12.20）

https://www.jtbcorp.jp/jp/newsroom/2023/12/20_itb_2024-annual-outlook.html

※3 大阪・関西万博 来場者輸送具体方針（アクションプラン）第3版（2025年日本国際博覧会来場者輸送対策協議会、2023年11月）

https://www.expo2025.or.jp/wp/wp-content/uploads/expo2025_railyoushayusougutalhousin_03_honpen_231120.pdf



仙台観光情報サイト

せんだい旅日和

SENDAI Official Tourist Information

秋保大滝

あきうおおたき



【国指定名勝】幅6m、落差55mの直瀑で、華厳の滝（板木滝）。秋保の滝（和歌山滝）はならぶ日本三名瀑の一つとも言われています。日本の美百選にも選ばれています。晴れる初夏、春秋の秋には一層見事な眺めとなります。

住所

〒982-0244 宮城県仙台市太白区秋保町馬場字大滝



電話番号

022-398-2323 (秋保温泉観光案内所)

アクセス

青葉交通 JR仙台駅西口バスターミナル8番乗り場 秋保大滝行「秋保大滝」下車（土曜・休日のみ直行）
市営バス JR愛子駅2番乗り場 長保温泉 - ニロ方面線「秋保大滝」下車

[詳細はこちら](#)

見学時間の目安

大駐車場から滝見台まで約5~10分、滝つばまで約20~30分（徒歩）

駐車場

普通自動車：約200台（大駐車場、臨時駐車場、滝つば駐車場計）
大型自動車：約6台

飲食施設

周辺施設として 大滝れすとはうす、二代目たま屋、不動亭屋、各やすみ処不動庵

喫煙スペース

なし

引用元：仙台観光情報サイトせんだい旅日和 <https://www.sentabi.jp/guidebook/attractions/116/>

タイトルに込めた意味

TOHOKU Waltz & Invitation

ワルツ：4分の3拍子の旋回舞曲。

語源はドイツ語の **waltzen** 「回転する」

施設等の客観的な紹介ではなく、**自身の体験や震災からの復興の物語などのストーリーを主観的に伝えること**で、**共感に訴え、東北地方に訪れたい気持ち**を醸起。

一度、東北地方に訪れた方が、招待状を使って、**円を描くように様々なスポットを巡る。**

今年度の取組の流れ

2023.11.9

第1回WS

- ・レクチャー（人に魅力を伝える方法など）
- ・エピソードの書き出し

宿題：エピソードシートの作成

2023.12.1

第2回WS

- ・エピソードシートのブラッシュアップ
- ・紙面デザイン（写真の選択、文書等の配置）



2023.12.19

第3回WS

- ・エピソードの校閲
- ・コース作成



Episode Sheet

会員	会員登録	会員登録
会員	会員登録	会員登録
会員	会員登録	会員登録

MEMO:

共感を生み出すために
・誰にでも経験がありそうな
シチュエーション
・コミュニケーションの存在
・ポジティブであること
という3点を意識



Invitation Card



ある日、私と父親2人だけが休みの日があった。せっかく2人だけなのでどこかに行くことになり、秋保大滝へ行くことに決めた。車の中では学校のことや、今後の進路について話していく、あまり楽しいとは感じなかつた。そして気まずい感じの中、秋保大滝に着いた。

滝を間近で見るため下のほうまで降りていく。滝つぼまでは段差が大きい階段を降りていくのだが、心なしか父親が急いでいるように見えた。どんどん近づくにつれ、滝の音が大きくなっていく。

滝つぼの近くまで来た。秋保大滝から感じられる自然の力を肌で感じることができ私は興奮していた。

だが一番興奮していたのは、父親のほうである。普段はあまり写真を撮ろうとは言わないのに、その時は父親のほうから写真を撮ろうと誘ってきた。その時私は少し照れくさかったがとてもうれしかった。

情景の想起

共感を生む
体験

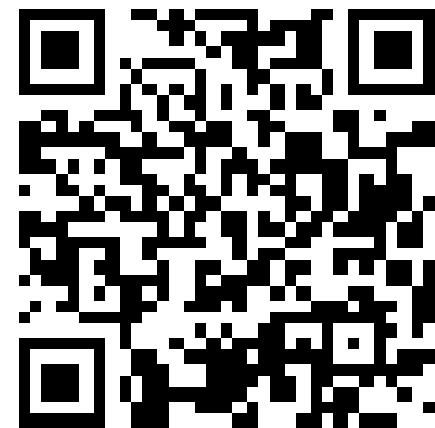
③宮城県松島高等学校観光科との連携による 取組の紹介

④全体総括

JTB総合研究所
主席研究員 兼
(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会理事

山下真輝氏

⑤会場からのコメントへの回答



<https://questant.jp/q/ZMENKDYQ>

閉会のあいさつ

復興庁 復興知見班 参事官

後藤 隆昭

閉会

本日はご清聴いただき誠にありがとうございました。

アンケートへのご協力をお願いいたします。



<https://questant.jp/q/90180K1Z>

回答期限:2023年12月28日(木)